



西林寺本堂 内陣



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖のことば

前に生れんものは
後に導き
後に生れんひとは
前を訪へ



西林寺の沿革(その3)

西林寺は文禄4(1595)年、道羽の時に浄土真宗に改宗しました。これは16世紀中頃から台頭し、興隆を極めた毛利一族の庇護の下、蓮如上人が広めた「お寄り講」の普及により、浄土真宗の信者が村内にも急激に増えてきたことに起因します。

江戸時代になると、幕府の統治政策として一つの村には一つのお寺が必要とされました。西林寺は寛永2(1625)年に寺号申請が了承され、正式に西本願寺の末寺になりました。更に慶安3(1650)年に寺地移転をし、その時に寺号を「西林寺」と改称し、元禄元(1688)年、現在地に寺地を再移転しました。

左の写真は、西林寺に残る浄土真宗改宗時の第12世准如門主(1577~1630、1593年に法統継承)の花押のある御文章です。町内のご門徒のお宅にもいくつか現存が確認できます。

仏教壮年会 あれこれ

納涼ビヤガーデン

7月29日(土)に開催しました納涼ビヤガーデンに、宝海寺のご住職をはじめ、宝海寺と西昭寺仏教壮年会のご参加も含め約70名の参加をいただきました。片手に冷たいビールを飲みながら、おいしい焼肉を口にし、ゲストの国際的篠笛奏者「デヴァアヨーコ」さんの幻想的な演奏に酔いしれたひと時でした。

「デヴァアヨーコ」さんは、「若婦の会」と「蓮華の会」の皆さまが、西林寺住職在職30年のお祝いとして招待されました。本当にありがとうございました。



デヴァアヨーコ篠笛演奏

安芸北組仏社会一日研修旅行

7月14日(金) 仏婦一日研修旅行と同じ周防大島方面への研修旅行に6名参加しました。非常に暑い日でしたが、こころに残るご縁をいただきました。



月性(私塾・清狂草堂)

仏教壮年会予定
十月・境内庭木の剪定
十二月・境内と本堂煤払い
十二月・除夜の鐘・火の番

キッズサンガ

7月27日(木) 今年度は低学年のお友達が多かったようです。1年生の感想を紹介します。「よかったですと思ったのはお寺のことが少しでもわかったことです。かねをつきに行つたときに、お寺のことをもっと知りたいと思つていたので。そしてめん流しはとってもおいしかったです。また参加したいと思つたので。来年も参加してくださいね。」



初めての内陣拝見



おかあさんといっしょ



参加者の皆さん



おいしかったそうめん流し



仏さまに合掌礼拝

法座案内

永代経法座

十月二十三日(月)昼席より
二十三日(木)朝席まで
講師 大阪府四条畷市
自然寺 加藤順教師

仏教婦人会報恩講法座

十一月二十三日(木)昼席より
二十五日(土)朝席まで
(お斎) 法座初日十一時より
講師 西林寺住職

報恩講法座

十二月十日(日)昼席と夜席
講師 大崎上島町木江
浄泉寺 加藤一英師

編集後記

11月から西林寺客殿の改修工事が始まり、法座のご講師の控室が使用できなくなり、法座の工期中、法座の日数が不規則になります。町内にある西林寺の掲示板や『西林寺だより』でご確認ください。

また、『西林寺だより』へのご意見、ご感想をお気軽にお寄せください。

聞思録(もんしりく)

何気なく使っている言葉をじっくり眺めてみるといろいろなこと気づかされます。そこには先人の願いが詰まっているのではないのでしょうか。

例えば「命日」という語。なぜ、亡くなられた人の死亡日を「命日」と言うのでしょうか。「忌日」という語もありますが、一般的には「命日」という語を使います。「誕生日」を「命の日」と言うのならわかりますが、亡くなられた日を「命の日」と名づけたのは、私たちの先人の深い知恵の結晶だと思います。

「命の日」とは、亡き人から私たちに向けられた願いであり、「どうか、私の命日であな自身があな自身(命)」と向き合う「日」として「命」という願いがこめられた言葉です。ここに命日にあたって法事を勤めるときに「ご縁に遇わせていただく」と言われてきた意味があります。

また、法事を勤めるとき、亡き人を「弔う」とか「偲ぶ」とよく耳にしますが、辞書を引くと、弔うは「とぶらう」が変化したもので、「訪」という漢字も用います。親鸞聖人は主著の最後に自身の願いとして「前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪(とぶら)へ」とお示しくされました。

アメリカからの来訪

7月21日(金)南加坂郷友会の方が西林寺に参拝されました。坂郷友会というのは、米国カリフォルニア州に移住された坂町出身者の親睦団体で、南カリフォルニアで結成された団体を南加坂郷友会と言います。大正15年に創設され、現在も年8回程度の行事を開催して懇親を深めています。



昭和30年の本堂焼失に伴う再建事業には存外のご懇念をお運びいただきました。この時には中加坂郷友会やシカゴとハワイの坂町人会からもご寄付いただきましたが、現在は解散されています。今年5月にも、西本願寺の専如門主伝統奉告法要参拝のため来日された数人の坂郷友会の方が西林寺に参拝されました。

蓮華の会バザー案内

10月23日(月)永代経法座昼席終了後、門信徒会館で手作りバザーを開催します。珈琲やお茶も用意しますので、お誘い合わせしてお立ち寄りください。

おみがき・草刈

8月11日(金)仏婦・仏壮合同で今年もお盆前の仏具のおみがきと境内の清掃を行いました。



本堂おみがき

盆踊り

8月15日(火)孟蘭盆会・夜席に続き恒例の盆踊りを、雨のため、門信徒会館で行いました。提灯が点灯され涼しい館内にクドキに合わせた笛や太鼓が響きわたり、若い人やおじさまの参加もあり、楽しいひと時でした。



門信徒会館で盆踊り

仏教婦人会 あれこれ

一日研修旅行

6月19日(月)山口県周防大島方面への一日研修旅行が、40名の参加で行われました。



智明副住職のミニコンサート

はじめに大島町の庄厳寺に参拝し、ご住職の法話を聞き、続いて「歌うお坊さん」と言われているシンガーソングライター智明副住職のすばらしい歌を聞かせていただきました。



庄厳寺にて

なかでも「アメイジンググレイス」のメロディーで歌われた「恩徳讃」は、曲と詞のハーモニーがぴつたりと合っ

て優しく澄みきった歌声に引き込まれて感動しました。その後、夫と共に起業された「手作りジャム」の専門店に立ち寄り、数十種類のジャムの試食をしながら、多くの方が何個も購入されていました。「ホテル&リゾート サンシャインサザンセト」で、瀬戸内の幸の昼食をいただいた後、幕末維新に活躍した志士たちに、強い影響を与えた海防論者勤皇僧の月性(1817〜1858)の生誕地、柳井市蛭子町の「妙円寺」に参拝しました。明治維新の精神的指導者と言われる「松下村塾」の主宰者、吉田松陰が遺言に「藩内で最も優れ称賛すべき人物は月性である」と書き残したほどの人物で、その資料館や私塾「清狂草堂」を見学させていただきました。足跡にふれることができました。素晴らしい歌と幕末の傑僧をたずねた研修はとて有意義で、参加した皆さまから「来てよかった」のお声をいただき、仏さまのご縁に感謝する一日でした。



妙円寺住職のお話

報恩講法座のご案内

十一月二十三日(木)より
二十五日(土)まで
お斎 二十三日(木)十一時より
(申し込み期限 十一月十五日(水)まで)